

## ライフインテリジェンスとオフィス情報システム論文特集の発行にあたって

ライフインテリジェンスとオフィス情報システム論文特集編集委員会

委員長 岡本 学



ライフインテリジェンスとオフィス情報システム (LOIS) 研究会は、1986年にオフィスシステム研究会として発足以来、名称を変更しつつもオフィス情報システムに関わる技術を研究対象として取り扱ってきた。2009年度より、一般ユーザであるコンシューマ系を含めた情報システムの中で、ライフログなど身近な情報を取り扱うこととし、現在の名称に変更した。

2009年度以降、年間70件程度の研究会発表があり、共催・連催を行う他学会・研究会の発表を含めると120件以上の発表が研究会で発表され、活発な議論が行われている。特にLOIS研究会と名称を変更した後は、ライフログ関係の発表が増加した。スマートフォン及び周辺デバイスの利用により、一般ユーザでも多種多様なライフログを簡単に取得できるようになった。また多種多様なセンサデバイスや、小型のボードコンピュータの出現により、実験システムを簡易に実現できるようになった。これらにより多くのライフログの情報抽出や提示手法など様々な課題が議論されている。近年はライフログの発表に代わり、セキュリティやプライバシーに関連した発表も増えている [1]。ライフログのようなユーザのデータを取り扱うのに伴い、ログの収集や分析方法のみならず、暗号化の様なデータを安全に取り扱うための基礎技術から、ユーザの安心感の様な心理的要因まで幅広い議論が行われている。また、情報システムやアプリケーションに関する発表が多いのも特徴であり、近年はWebシステムやコミュニケーションシステムに関する発表も見受けられる。

こうした背景を踏まえ、研究成果の集積的発表により同分野の発展に貢献するべく、情報・システムソサイエティ和文論文誌にてライフインテリジェンスとオフィス情報システム特集 (2016年10月号) を企画することとした。本研究専門委員会関連の論文特集号としては、2002年7月のオフィスシステム論文小特集 (9編)、2006年12月の次世代ワークスタイル論文特集 (6編)、2012年4月ライフログ処理技術とその活用システム特集 (13編)、2014年12月のライフインテリジェンスとオフィス情報システムレター特集 (15編) に引き続く5回目の特集号の企画であり、今後も継続的に特集号を企画していきたい。

今回の特集号に関しては15編の投稿があり、このうち9編が採録判定された。その内訳は、

- ・ライフログ 論文3編
- ・オフィスアプリケーション・オフィス支援 論文3編
- ・セキュリティ 論文1編、レター論文2編

であり、システム開発論文は論文1編であった。掲載を見送らせて頂いた4編には書き方を工夫したり、説明が不明確なところを加筆・修正すれば採録可能な興味深いものも数多くあった。

本特集の編集に当たり短期間に企画・論文募集・採否判定等の作業が計画通り進められたのは、福田洋治・白石善明両編集幹事、編集委員及び査読委員の御尽力によるところが大きい。厚く御礼を申し上げる。また論文を投稿頂いた著者の方々及び本企画を支援頂いた和文論文誌D編集委員会の関係各位に深く感謝する。

## 文 献

- [1] 若原俊彦, 横 俊孝, 岡本 学, 山元規靖, 茂木 学, 小館亮之, “LOIS研究の動向分析 (3) 一文献検索I-Scoverとその応用システムを利用した分析”, 信学技報, LOIS2014-9, May 2014.

おかもと まなぶ  
岡本 学 (正員: シニア会員) 1989年九州芸工大・芸術工・音響設計卒. 1991年同大学院情報伝達専攻修了. 2007年九大・芸術工博士過程後期単位取得退学. 1991年NTT入社. 以来, 通信システム音響系の構築技術・再生方式, ICTサービス, 及び音声認識システム等の研究開発に従事. 現在NTTメディアインテリジェンス研究所主幹研究員. 本会LOIS研究専門委員会前委員長. 電子情報通信学会, 日本音響学会, IEEE各会員. 博士 (芸術工学).

## ライフインテリジェンスとオフィス情報システム論文特集編集委員会

委員 長	岡 本	学							
副委員 長	西	宏之							
幹 事	福 田	洋治	・	白 石	善 明				
委 員	相 澤	清晴	・	伊 沢	亮 一	・	小 館	亮 之	・ 関 良 明
	谷 本	茂 明	・	檜 垣	泰 彦	・	福 島	和 英	・ 山 元 規 靖
	若 原	俊 彦							